

NEWS LETTER

2019年11月22日

一般財団法人岩手経済研究所

2019年冬季 岩手県内ボーナス調査について

一般財団法人岩手経済研究所（理事長：高橋真裕）は、定例の「2019年冬季 岩手県内ボーナス調査」を実施しました。

本調査の概要は以下のとおりです。

2019年冬季ボーナスの増減予想

「前年並み」	63.3%	（前年調査比	9.6p減）
「増加」	18.4%	（同	3.8p増）
「減少」	11.3%	（同	4.4p増）
「支給なし」	7.0%	（同	1.4p増）

※「増加」は新卒者等で前年に支給がなかった場合等を含む

本調査の内容は別紙「2019年冬季 岩手県内ボーナス調査」のとおりです。また、詳しくは2019年11月29日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 2019年12月号（No.445）」にも掲載いたします。

2019年11月22日

2019年冬季 岩手県内ボーナス調査

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
岩手銀行中ノ橋支店3階
一般財団法人 岩手経済研究所
理事長 高橋 真裕
(担当 地域経済調査部 佐藤 和孝)
TEL 019-622-1212

＜ 調査結果の要約 ＞

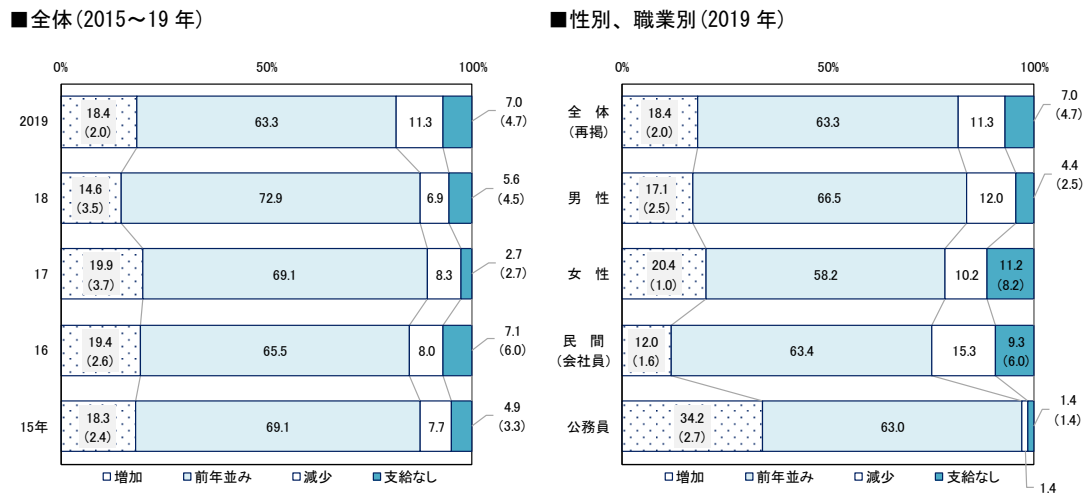
1. 冬季ボーナスアンケート調査

(1) 冬季ボーナスの受取予想 ～「前年並み」が最多

2019年冬季ボーナスの受取予想は「前年並み」の支給があるとする回答が63.3%（前年調査比9.6ポイント（以下、「p」）減）、前年と比べ「増加」が18.4%（同3.8p増）、「減少」が11.3%（同4.4p増）となった。また、「支給なし」は7.0%（同1.4p増）となり、うち2期連続で支給がないとの回答は4.7%であった（図表1）。

「前年並み」が6割超を占めたものの、「増加」「減少」「支給なし」がいずれも上昇し、前年よりも回答にバラつきがみられた。また、「増加」は上昇したが16、17年水準には及ばなかったほか、「減少」は過去5年で最多の割合となった。

図表1 冬季ボーナスの増減予想



(注) () 内は前年の支給がなかった回答者の割合、「増加」は新卒者等を含む

(2) 使途 ～「貯蓄・投資」が上昇

ボーナス支給があると予想した回答者にその使途を「消費」「返済」「貯蓄・投資」に金額ベースで分配してもらった。

その結果、全体では「貯蓄・投資」が41.6%（前年調査比4.8p増）、「消費」が38.3%（同2.6p減）、「返済」が20.1%（同2.2p減）となった（図表2）。前年調査と比べて交際費や教育費、住宅ローン返済などが抑えられたことで「消費」と「返済」が低下した一方、「貯蓄・投資」の割合が上昇した。

「貯蓄・投資」の上昇要因としては、6月に公的年金以外に必要な老後資金の水準が話題となったほか、調査期間（9～10月）が消費税率引き上げ前後だったことなどから、将来に備える動きが強まったとみられる。

図表2 冬季ボーナスの使途

単位：％、p

	全体		性別				独身・既婚別			
	前年比	△	男性		女性		独身		既婚	
			前年比	△	前年比	△	前年比	△	前年比	△
消 費	38.3	△ 2.6	40.6	△ 0.4	33.9	△ 7.1	37.0	2.6	38.7	△ 3.9
買い物	12.5	0.0	13.5	1.4	10.6	△ 2.6	16.1	0.3	11.6	△ 0.0
レジャー	6.4	1.1	5.9	0.6	7.3	2.1	6.3	△ 0.5	6.4	1.5
交際費	3.0	△ 1.4	3.1	△ 1.7	2.6	△ 0.8	3.1	△ 0.5	2.9	△ 1.7
教育費	8.1	△ 1.2	8.3	△ 1.4	7.7	△ 0.8	4.6	3.6	9.0	△ 2.4
その他	8.4	△ 1.2	9.7	0.7	5.7	△ 5.0	7.0	△ 0.3	8.7	△ 1.4
返 済	20.1	△ 2.2	22.3	△ 4.4	15.6	3.4	13.2	△ 0.2	21.8	△ 2.6
住宅	9.7	△ 1.2	11.5	△ 3.2	5.9	3.7	1.3	△ 1.6	11.8	△ 1.1
自動車	4.6	0.5	5.5	1.1	2.8	△ 0.7	6.1	2.8	4.2	△ 0.1
教育	0.9	△ 0.2	0.5	△ 0.7	1.5	0.6	1.7	1.3	0.6	△ 0.6
クレジット	2.7	△ 0.4	2.7	△ 0.5	2.8	△ 0.2	2.1	△ 1.1	2.9	△ 0.2
その他	2.2	△ 0.8	2.0	△ 1.2	2.5	△ 0.0	2.0	△ 1.6	2.3	△ 0.6
貯蓄・投資	41.6	4.8	37.1	4.8	50.6	3.8	49.7	△ 2.4	39.6	6.5
回答者数	238人		151人		87人		57人		181人	

- (注) 1. 回答者の支給予想額の合計を100%とした構成比
2. 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

(3) 買い物の動向

① 内容 ～「衣料品」が中心

「消費」のうち「買い物」を選択した回答者にその内容を聞いたところ、全体では上位3品目は前年と同じ順位となった（図表3）。

例年と同様に「衣料品」が75.7%（前年調査比3.1p増）で最多を占め、次いで「靴・カバン」「スポーツ用品」の順となり、また、第4位には今回調査から新たに追加した「まとめ買い（飲食料品等）」が入った。一方、「贈答品（お歳暮等）」は前年の4位から9位に順位を落とした。

図表3 買い物の内容（上位10品目、複数回答）

単位：%、p

順位	(前年)	品 目	全体		性別		独身・既婚別	
			前年比		男性	女性	独身	既婚
1	(1)	衣 料 品	75.7	3.1	70.2	86.0	69.2	78.1
2	(2)	靴 ・ カ バ ン	28.5	5.3	19.1	46.0	46.2	21.9
3	(3)	ス ポ ー ツ 用 品	20.8	1.3	29.8	4.0	25.6	19.0
4	-	まとめ買い（飲食料品等）	14.6	-	10.6	22.0	5.1	18.1
5	(5)	車 関 連 用 品	12.5	△ 0.3	17.0	4.0	5.1	15.2
6	(7)	お も ち や	9.7	△ 0.0	9.6	10.0	5.1	11.4
7	(15)	家 庭 用 ゲ ー ム 機	8.3	5.3	9.6	6.0	7.7	8.6
"	(16)	イ ン テ リ ア	8.3	5.3	10.6	4.0	10.3	7.6
9	(19)	テ レ ビ	6.9	5.1	9.6	2.0	7.7	6.7
"	(4)	贈 答 品 （ お 歳 暮 等 ）	6.9	△ 7.7	8.5	4.0	7.7	6.7
回 答 者 数			144人		94人	50人	39人	105人

- (注) 1. 「買い物」を選択した回答者に占める構成比
 2. 5項目までの複数回答
 3. 「まとめ買い（飲食料品等）」は今回調査から追加した項目

② 購入場所 ～大型ショッピングセンターが最多

今回調査から冬季ボーナスで買い物をする予定の場所（店舗形態）についての質問を追加した。

その結果、「大型ショッピングセンター」が 54.9%で最多となり、次いで「大型専門店・量販店」が 44.4%、「インターネット・通信販売」が 38.2%などとなった（図表 4）。

図表 4 買い物の購入場所・店舗形態（複数回答）

単位：%

	全体	性別		独身・既婚別	
		男性	女性	独身	既婚
大型ショッピングセンター	54.9	51.1	62.0	43.6	59.0
大型専門店・量販店	44.4	45.7	42.0	33.3	48.6
インターネット・通信販売	38.2	38.3	38.0	56.4	31.4
一般小売店・専門店	14.6	20.2	4.0	12.8	15.2
百貨店	12.5	6.4	24.0	12.8	12.4
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答者数	144人	94人	50人	39人	105人

- (注) 1. 「買い物」を選択した回答者に占める構成比
 2. 2項目までの複数回答
 3. 「大型専門店・量販店」は家電大型専門店、ホームセンター、ドラッグストアなど、
 「一般小売店・専門店」は単独店舗の路面店などを指す

(4) 貯蓄・投資の動向

① 目的 ～「老後」に備える動きが強まる

使途において「貯蓄・投資」を選択した回答者にその目的を聞いたところ、全体では「老後の生活資金」が32.6%（前年調査比11.6p増）で最多となり、次いで「子ども等の教育資金」が29.2%（同2.1p増）、「当面の家計の補充」が24.7%（同16.4%減）、「特に目的はない」が20.2%（同2.0p増）などとなった（図表5）。

図表5 貯蓄・投資の目的（複数回答）

単位：%、p

	全体		性別				独身・既婚別			
			男性		女性		独身		既婚	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
老後の生活資金	32.6	11.6	24.5	4.2	45.6	23.5	25.0	14.1	35.4	10.1
子ども等の教育資金	29.2	2.1	30.0	1.1	27.9	3.5	6.3	3.1	37.7	0.4
当面の家計の補充	24.7	△16.4	28.2	△11.7	19.1	△23.9	25.0	△9.4	24.6	△19.4
特に目的はない	20.2	2.0	22.7	3.2	16.2	△0.1	33.3	△1.0	15.4	4.1
レジャー資金	10.7	△1.0	9.1	1.3	13.2	△4.2	8.3	△12.0	11.5	3.5
住宅新築・改築資金	9.0	3.4	8.2	3.5	10.3	3.3	4.2	△0.5	10.8	4.8
病気や災害への備え	7.9	△2.9	6.4	△5.4	10.3	1.0	4.2	△2.1	9.2	△3.4
結婚資金	4.5	△1.6	5.5	△0.8	2.9	△2.9	12.5	△7.8	1.5	1.5
高額商品購入資金	3.9	0.2	4.5	0.6	2.9	△0.5	4.2	△2.1	3.8	1.2
宅地購入資金	1.1	0.2	1.8	0.3	0.0	0.0	0.0	△1.6	1.5	0.9
その他	2.2	△3.4	0.9	△3.8	4.4	△2.6	2.1	△4.2	2.3	△3.0
回答者数	178人		110人		68人		48人		130人	

(注) 1. 「貯蓄・投資」を選択した回答者に占める構成比
2. 2項目までの複数回答

② 方法 ～「預貯金」関係が中心～

「貯蓄・投資」の方法については、全体では「普通預金（通常貯金）」が 68.0%（前年調査比 3.5 p 減）で最も多く、次いで「定期預金（定額貯金）」が 39.3%（同 7.1 p 増）、「投資信託」が 16.9%（同 7.0 p 増）、「財形貯蓄」が 14.6%（同 2.0 p 増）などとなった（図表 6）。

図表 6 貯蓄・投資の方法（複数回答）

単位：%、p

	全体		性別				独身・既婚別			
	前年比		男性		女性		独身		既婚	
普通預金(通常貯金)	68.0	△ 3.5	70.9	△ 0.2	63.2	△ 8.9	75.0	△ 3.1	65.4	△ 3.3
定期預金(定額貯金)	39.3	7.1	35.5	8.9	45.6	4.9	39.6	13.0	39.2	4.6
投資信託	16.9	7.0	15.5	6.9	19.1	7.5	18.8	6.3	16.2	7.5
財形貯蓄	14.6	2.0	12.7	1.0	17.6	3.7	10.4	1.0	16.2	2.2
社内預金	5.6	1.4	2.7	△ 1.2	10.3	5.6	4.2	△ 2.1	6.2	2.8
確定拠出年金	5.1	3.2	4.5	3.8	5.9	2.4	6.3	3.1	4.6	3.3
株式	3.9	1.6	6.4	3.2	0.0	△ 1.2	4.2	4.2	3.8	0.5
国債	0.6	0.6	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8
外貨預金	0.6	△ 0.8	0.0	△ 2.3	1.5	1.5	0.0	0.0	0.8	△ 1.2
その他の	0.0	△ 2.8	0.0	△ 2.3	0.0	△ 3.5	0.0	△ 6.3	0.0	△ 1.3
回答者数	178人		110人		68人		48人		130人	

(注) 1. 「貯蓄・投資」を選択した回答者に占める構成比

2. 複数回答の選択数に制限はない

2. 冬季ボーナス支給額推計 — 支給総額はプラスに転じる —

当研究所では県の「毎月勤労統計」などの各種統計を基に 2019 年冬季ボーナス支給総額の推計を行った。なお、今年の夏季調査から推計方法の見直しを実施したため、前年以前に公表した推計結果とは接続しないものとなっている。

推計の結果、民間(会社員)と公務員を合わせた支給総額は1,299億円で前年比2.6%増の見通しとなった(図表7)。

図表7 冬季ボーナス支給総額の推計結果

	2017		18		19年	
	百万円	前年比 %	百万円	前年比 %	百万円	前年比 %
民間 (会社員)	97,545	△ 0.1	91,688	△ 6.0	96,050	4.8
公務員	34,683	1.4	34,884	0.6	33,850	△ 3.0
合計	132,228	0.3	126,572	△ 4.3	129,900	2.6

(注) 経年分は推計方法見直し等に伴い再試算した

< 調査要領 >

1. 調査内容

県内の給与所得者における 2019 年冬季ボーナスの支給見通しや使途など

2. 調査期間

2019 年 9～10 月

3. 調査対象者

県内の給与所得者

4. 調査方法

直接配布、郵送回答

5. 回答者数

256 人 (配布部数 700 部 回収率 36.6%)

6. 回答者属性

		回答者数	構成比	平均年齢
		人	%	歳
全 体		256	100.0	42.4
性 別	男 性	158	61.7	43.1
	女 性	98	38.3	41.1
職 業 別	民間(会社員)	183	71.5	42.7
	公 務 員	73	28.5	41.7
独 身・ 既 婚 別	独 身	60	23.4	35.4
	既 婚	196	76.6	44.5
年 代 別	20 歳 代 以 下	34	13.3	-
	30 歳 代	70	27.3	-
	40 歳 代	83	32.4	-
	50 歳 代	58	22.7	-
	60 歳 代 以 上	11	4.3	-